

令和2年度に係る年度評価及び第4期中長期目標期間に係る期間実績評価書（素案） に対する意見等

指摘箇所	左記に対する修正案・意見等
第3. 研究成果の最大化その他の業務の質の向上に関する事項	
1.(1)①課題解決型研究プログラム	<p>【年度】低炭素プログラムではメタン収支、北西太平洋の海面水温上昇等の人為影響を明らかにし、資源循環研究プログラムではボトルアップ型の積み上げ方式により政策効果の測定・予測を可能にし、自然共生プログラムでは気候変動の深刻な影響を受けているサンゴについて保全優先海域の抽出を行うなど、政策の基礎となる重要な知見を提供しており、政策形成への寄与を高く評価できる。</p> <p>【期間】新型コロナウイルスの影響を受けた令和2年度にも査読論文数が期間内で最多となるなど、第3期中長期目標期間に比して研究成果の顕著な増加が認められ、外部評価でも高い評価を受けている。</p> <p>【年度】難易度、重要度の高い複数のプログラムを含むが、どれも順調に成果を上げている。低炭素研究プログラムの気候変化予測の成果は、社会的へのインパクトも大きい。</p> <p>【期間】中期目標期間の成果としても着実に成果を上げており評価できる。</p> <p>【年度】5つのプログラムともに着実な成果を挙げており評価できる。特に、モニタリング指標のひとつである誌上発表数が大きく伸びていること、また外部研究評価においても5プログラム平均が期間中で最高評価となるなど高く評価できる。A評価を支持する。</p> <p>【期間】期間を通して、継続的に高いアクティビティを維持し、かつ着実な成果を挙げている点を高く評価したい。一方で、評価軸である「統合的な取り組み」という点はどのようにしているのかわかりにくい。例えば、研究者のシナジー効果が発揮されたとか、これまで個別に行っていたテーマに横軸が確立されたとかの見せ方が可能であれば、是非検討を願いたい。A評価を支持する。</p> <p>【年度・期間】PJ2の適応策と緩和策については、近年、森林伐採による太陽光パネルの設置など、課題が山積している。こうしたミスマッチを解消するための研究を進めるべきである。</p> <p>【年度】優れた成果を上げ続けている点は高く評価される。</p> <p>【期間】優れた研究を積み重ねて重要な課題解決に貢献した点は高く評価される。</p>
1.(1)②災害環境研究プログラム	<p>【期間】地方公共団体をはじめ各種の関連機関と連携して現場の課題解決に向けた精力的な取り組みが進められてきたことは高く評価できるが、各地域の需要に応じて多様な事業を推進しているためか、災害環境研究としての意義がわかりにくい個別の取り組みもあり、次期においては災害環境研究の体系化への寄与も期待する。</p> <p>【年度】福島支部を中心として、被災地の環境回復・創生に貢献している。ALPS処理水の海洋放出評価については、モデルがないため扱えないとのことだが、原発事故による環境影響は、他機関と連携するにしてもまとめて環境研で扱ったほうがよいのではないだろうか？</p> <p>【期間】概ね適切に進められている。一般向けの講演・ワークショップも多数行なわれている。</p> <p>【年度・期間】年度、期間ともに良好な業績であると考えられる。A評価を支持する。</p> <p>【年度・期間】放射性物質による汚染や暴露の問題、それと廃棄物マネジメント、環境：健康リスクについては、他の水害（たとえば19号台風）と比べると、自ずと内容が異なってくるのが予想される。もう少し整理して、全体像を示してほしい。</p>

指摘箇所	左記に対する修正案・意見等
	<p><u>【年度】他の機関や組織との連携を強めた研究を実施しており、優れた成果が得られている。</u></p> <p><u>【期間】従来は存在していなかった新たな研究領域を開拓した成果は高く評価される。</u></p>
<p>1.(2)環境の保全に関する科学的知見の創出等の推進</p>	<p><u>【年度】地域環境研究分野では琵琶湖分室開設から間もない中で全層循環が起きなかった理由を解明し、生物・生態系分野ではモーリシャスにおける油流域事故について政府への提言も含めた迅速な対応を行うなど、地域から国際レベルに至るまで、これまでの基礎研究の蓄積を活かし、多様かつ重要な政策貢献を行っている点は高く評価できる。</u></p> <p><u>【年度】GOSATシリーズの研究事業は順調に進められており、エコチル調査についても研究実施のコアセンターとしての機能を着実に遂行している。</u></p> <p><u>【期間】論文数、招待講演数とも第3期の平均以上となったことは評価される。また国・地方公共団体の審議会等への参画による環境政策への貢献や、研究成果のガイドライン等への反映も適切に進められている。</u></p> <p><u>【年度】多くの課題で科学的・学術的貢献が認められる。また、成果や経験・知見を一般向けにわかりやすく伝えることにも多くのエフォートをかけており、公開したYoutube動画が多くの視聴回数を数えているなど着実な成果を挙げている。A評価を支持する。</u></p> <p><u>【期間】中長期的ならびに突発的な課題のいずれに対しても、国立環境研究所として果たすべき役割を高い水準で実施しており高く評価できる。A評価を支持する。</u></p> <p><u>【年度・期間】この項目のみならず、論文発表数、口頭発表数などのモニタリング指標については、どの基準でダブルカウント可能としたのか等、もう少し実態がわかるように客観的に整理してほしい。</u></p> <p><u>【年度】多彩な研究分野で優れた成果を挙げている。</u></p> <p><u>【期間】研究の必要性を考慮した研究の計画と実行がなされ、優れた成果が上がっている。衛星観測・エコチル調査では重要な知見を継続的に得た点が評価される。</u></p>
<p>1.(3)国内外機関とのネットワーク・橋渡しの拠点としてのハブ機能の強化</p>	<p><u>【期間】気候変動業務に関するA-PLATおよびA-PLATの立ち上げは適応業務のS評価の重要な評価要素ともされており（年度）、両項目に関わることは理解できるが、どちらか主要な項目に位置付ける方が妥当ではないか。</u></p> <p><u>【年度】概ね適切である。</u></p> <p><u>【期間】IPCCの第6次報告書の執筆等、国際機関・国際研究プログラムに積極的に参加しており、高く評価される。国内外機関とのネットワークは概ね良好である。</u></p> <p><u>【期間】環境研究における中核的機関としての役割を高い水準で果たしていると認められる。今後、国際的な活動の幅をさらに広げ、日本の環境研究の世界における地位向上に向けたさらなるリーダーシップを期待したい。A評価を支持する。</u></p> <p><u>【期間】国内外の組織と継続的に連携を深めている点は高く評価される。</u></p>
<p>1.(4)研究成果の積極的な発信と政策貢献・社会貢献の推進</p>	<p><u>【年度】環境政策への貢献事例に見られるように、国のみならず、国際、地域レベルでも制度的な貢献が行われている点は評価できる。</u></p> <p><u>【年度・期間評価】各種審議会への参加について：他の省庁との連携・貢献がなされていれば、それがわかるような工夫をされると、より良いかと思います。</u></p> <p><u>【年度】新型コロナのため、公開シンポジウムはオンライン配信で行われ現地開催よりも多くの視聴が得られたことは評価される。ポストコロナ時代もオンライン配信の併用、およびオフラインでのシンポジウムビデオ公開を検討してほしい。</u></p> <p><u>【期間】新型コロナパンデミックにも関わらず、出版論文数が第3期より上回ったのは高く評価される。</u></p> <p><u>【期間】知的財産の取得にも積極的に取り組んでおり、高く評価できる。ただし、知的財産は取得することが目標ではなく活用することが重要である。今後はその視点でのさらなる取り組みを期待したい。A評価を支持する。</u></p>

指摘箇所	左記に対する修正案・意見等
	<p>【年度】多数の優れた成果を論文として発表している点は特筆される。</p> <p><u>【期間】期間を通じて多数の論文を発表し、また社会に対して環境研究の発信を活発に行ったことは高く評価される。</u></p>
2.環境情報の収集、整理及び提供に関する業務	<p>【年度】概ね適切である。</p> <p><u>【期間】「環境展望台」の整備を通じて収集、整理された環境情報の提供が適切になされている。</u></p> <p>【年度・期間】年度、期間ともに<u>良好な業績であると考え。A評価を支持する。</u></p> <p><u>【期間】期間を通じて、環境に関する有用な情報を社会に提供しており、学術面および実務面での貢献が大きい。</u></p>
3. 気候変動適応に関する業務	<p>【年度・期間評価】<u>国内外における気候変動適応センターの役割は大きく、優れた活動であり、その貢献は高く評価できると考えます。対外的周知を期待します。</u></p> <p>【年度】<u>A-PLATを運営し、有効に生かされている。講演会への講師派遣など地方公共団体への知見提供も適切に行われている。</u></p> <p><u>専門性を生かした活動を積極的展開し、国策への重要な提言を行うとともに、研究機関連携を主導的に推進するなど多くの重要な活動でリーダーシップを発揮しており高く評価できる。S評価を支持する。</u></p> <p><u>【期間】気候変動適応の成果指標として適応計画の策定数があげられているが、計画内容の中身についての分析も行ってほしい。優れた事例は、他の自治体にとっても有益である。</u></p> <p>【年度】<u>立ち上げ期として協働体制の拡大と充実が図られており、高く評価される。</u></p> <p>【期間】気候変動への適応という、社会の強い要請に応じて、限られた年限の中で研究機関と自治体の協働体制を形づくり、その機能を開始させたことは特筆すべきことである。</p>
第4. 業務運営の効率化に関する事項	
1.業務改善の取組に関する事項	<p>【年度】<u>光熱費の減少の主要因は工事によるとされているが、自宅就業の増加による減少分が明確に表れていないのはなぜか。</u></p> <p>【年度・期間】特に問題はないように思われる。</p> <p><u>特段のコメントはございません。B評価を支持します。</u></p>
2.業務の電子化に関する事項	<p>【年度】<u>コロナ禍における自宅就業を支援するIT環境の緊急整備を迅速に行ったことは評価できる。</u></p> <p>【年度】<u>新型コロナ感染症拡大に伴い、VPNの拡大など、在宅環境も整備された。</u></p> <p><u>【期間】Web会議システムの導入により遠隔地を結んだ会議の経費と業務量（移動時間）の削減が適切になされた。</u></p> <p>特段のコメントはございません。A評価を支持します。</p> <p>【年度】<u>スーパーコンピュータの運用開始によって研究の進展とコスト低減に貢献した点は高く評価される。</u></p> <p><u>【期間】研究環境としてのコンピュータとネットワークの充実を継続的に行い、コロナ禍への対応によって業務環境を良好に維持したことは評価される。</u></p>
第5. 財務内容の改善に関する事項	
	<p>【年度・期間】概ね適切と思われる。</p> <p><u>特段のコメントはございません。B評価を支持します。</u></p>

指摘箇所	左記に対する修正案・意見等
第6. その他の業務運営に関する重要事項	
1.内部統制の推進	【年度・期間】特に問題ないように思われる。
	<u>特段のコメントはございません。B評価を支持します。</u>
2.人事の最適化	【年度・期間】 <u>研究系常勤職員の採用について任期付きの割合が高い。もし、任期付き職員の大部分が若手研究者なのであれば、見直すべきである。若手のパーマネント雇用</u> <u>特段のコメントはございません。B評価を支持します。</u>
3.情報セキュリティ対策の推進	【期間】 <u>情報セキュリティ専任の高度技能専門員の採用をはじめ、期間内に着実に対策を強化している。</u> 【年度・期間】 <u>概ね適切と思われる。在宅勤務における情報セキュリティについては引き続き注意が必要である。</u> 特段のコメントはございません。B評価を支持します。
4.施設・設備の整備及び管理運用	【年度・期間】適切と思われる。 <u>特段のコメントはございません。B評価を支持します。</u>
5.安全衛生管理の充実	【年度・期間】適切と思われる。 <u>特段のコメントはございません。B評価を支持します。</u>
6.業務における環境配慮等	【年度・期間】適切と思われる。 <u>特段のコメントはございません。B評価を支持します。</u>